

CASBEE_Sapporo2014v1.2
JR北海道社員研修センター

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2
■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート	実施設計段階				重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	A	B	C	D	評価点	重み係数	評価点	重み係数						
Q1 建築物の環境品質														
Q1 室内環境														
1 音環境														
1.1 騒音														
1.2 遮音														
1 開口部遮音性能														
2 界壁遮音性能														
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														
1.3 吸音														
2 温熱環境														
2.1 室温制御														
1 室温														
2 外皮性能														
3 ゾーン別制御性														
2.2 湿度制御														
2.3 空調方式														
3 光・視環境														
3.1 屋光利用														
1 屋光率														
2 方位別開口														
3 屋光利用設備														
3.2 グレア対策														
1 屋光制御														
2 眩り眩み対策														
3.3 照度														
3.4 照明制御														
4 空気質環境														
4.1 発生源対策														
1 化学汚染物質														
2 浮遊粒子状物質														
4.2 換気														
1 換気量														
2 自然換気性能														
3 取り入れ外気への配慮														
4.3 運用管理														
1 CO ₂ の監視														
2 喫煙の制御														
Q2 サービス性能														
1 機能性														
1.1 機能性・使いやすさ														
1 広さ・収納性														
2 高度情報通信設備対応														
3 バリアフリー計画														
1.2 心理性・快適性														
1 広さ感・景観														
2 リフレッシュスペース														
3 内装計画														
1.3 維持管理														
1 維持管理に配慮した設計														
2 維持管理用機能の確保														
3 衛生管理業務														
2 耐用性・信頼性														
2.1 耐震・免震														
1 耐震性														
2 免震・制振性能														
2.2 部品・部材の耐用年数														
1 躯体材料の耐用年数														
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														
6 主要設備機器の更新必要間隔														
2.4 信頼性														
1 空調・換気設備														
2 給排水・衛生設備														
3 電気設備														
4 機械・配管支持方法														
5 通信・情報設備														
3 対応性・更新性														
3.1 空間のゆとり														
1 階高のゆとり														
2 空間の形状・自由さ														
3.2 荷重のゆとり														
3.3 設備の更新性														
1 空調配管の更新性														
2 給排水管の更新性														
3 電気配線の更新性														
4 通信配線の更新性														
5 設備機器の更新性														
6 バックアップスペースの確保														

CASBEE_Sapporo2014v1.2 JR北海道社員研修センター		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)						
スコアシート	実施設計段階	重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄				
		A	B	C	D	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体		
配慮項目						評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	4.4
1 生物環境の保全と創出			C		敷地内にある生物資源を構成している動植物、表土を復元している	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			C		周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮						4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				D	設計プロセスに利用者が参加している	5.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上		B	C			3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制	A				BPI=0.780	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	A				クール・ヒートチューブの導入	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化					BEI 非住宅 - 住宅(専有部) -	3.1	0.50	-	-	3.1
集合住宅以外の評価(3a.3b)	A				BEI=0.99	3.1	1.00	-	-	-
集合住宅の評価(3c)	A					-	-	-	-	-
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					中央監視により照明・空調・換気の運転・監視・計測を行い効率的運	3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング	A					3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制	A					3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価						-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	A					5.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	A					5.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護						3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水					節水型大便器、洗面の自動水栓、擬音装置	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減						3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		B			躯体に強度の高い材料を採用している。	3.0	0.10	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用		B			-	3.0	0.20	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		B			-	3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		B			ボード:天井、壁 ビニル系床材:床仕上	4.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		B			ユニット天井の採用	2.0	0.10	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		B				5.0	0.20	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用					化学物質排出把握管理促進法に指定された物質を含まない材料を使	5.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避						3.5	0.70	-	-	-
1 消火剤		B				-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)		B			ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用	4.0	0.50	-	-	-
3 冷媒		B				3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		B				3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮						2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		B				3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		B	C	D		2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制						4.2	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減		B			降雨量60mm/hを想定した流出抑制を行っている	4.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制					利用者は列車を利用し、JR稲穂駅より徒歩で来場する	5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制		B		D	ゴミの分別回収促進、効率的な除排雪のための空間の整備を行って	5.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮						3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	-
1 騒音						3.0	0.33	-	-	-
2 振動						3.0	0.33	-	-	-
3 悪臭						3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						2.6	0.40	-	-	-
1 風害の抑制						2.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制					北側が第一種低層住居地域のため、当該基準で日影を検討	3.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制						4.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制						4.0	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					ポール灯は上方光束0%の器具を採用	4.0	0.70	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					ガラス面積を最小限、日当たり面は低反射ガラスにする	4.0	0.30	-	-	-